

園 長 通 信

ちぐさこども園 園長 榎渕 洋介

2020.12.19 Vol.20

《保育参加にて》

12月上旬、保育参加を終えた年長児のお母さんと、いつものように感想を話し合っている中で、ある質問を頂きました。「(折り紙、テープなどの)材料は子どもが自由に使っていいという方針なんですか?」(=もったいなくないですか?使い方を子どもに指導しないんですか?)

園には造形コーナーがあり、そこには折り紙や色画用紙、テープ、糸、空き箱など、様々な種類の材料が豊富に用意されており、子どもは自由に使うことができます。それらを組み合わせて面白い物を作る子がいる一方で、中には少し折っただけで、途中でやめてしまう事や、テープがなくなるまでグルグル巻きにするなど、テープ本来の「貼る・留める」とは異なる使い方をする事もままあります。

《もったいなくない?ムダ?》

従来から園の基本方針は「自由」です。ただ、3年前にアーティストの中島さんに出会って以来、「自由」の範囲と意味について、問い直す日々が続いています。筆で描く・塗る以外に絵の具にまみれる、料理で使う(ことの多い)アルミホイルを遊びの素材で使うなど、一見「もったいなくない」、「ムダ」とも思える子どもの行為にどんな意味があるのかを考えながら、少しずつ「自由」の範囲を変化させてきています。

その過程で改めて実感してきたことが2つあります。

一つは、当然のことながら、物を扱う技術は急に向上せず、積み上がっていくこと。今年の年長児は絵の具表現が好きで、より身近に熟達して扱っている印象があります。昨年は年長児がガムテープを器用に切っている手つきを見て、他園の保育者がとても驚いていました。その前年、前々年に絵の具やテープと散々戯れた時間が、その後の彼らの技術につながり、色々な場面での表現手段や対処方法の選択肢を広げていることは間違いないでしょう。

二つめは、子ども(人間)にとって「物との対話」がとても重要なこと。1歳の子どもでも繰り返し砂をこねくり回しながら、少しずつアプローチを変えたりしていることがあります。自分の周りの物とどう向き合っていくか、見たり、嗅いだり、触ったりしながら、リアルに自分の世界観を作っていく過程は、「人との対話」「自分との対話」と並んで、自己形成(自分らしさ)を形づくる重要な要素です。特に幼少期において、物とじっくり、たっぷりと関わる時間や空間の保障は、単に絵が上手になる、格好いい物が作れるといったことを越えた意味があると考えています。

とはいえ、物の数には限界があるので、園でもない時は「ない」、使い過ぎと思えば「もったいなくない」と子どもに言います。ご家庭で園と同じようにするのも無理があるでしょう。ただ、「もったいなくない」「ムダ」の中に、子どもの育ちがあることもご理解頂き、ともに見守って頂けると嬉しいです。

【2学期トピックス】

●様々なコロナ対応がありました。

・父母の会行事の夏まつりを、オンラインを活用して実施して頂きました。秋には初めて“ちぐさオリンピック”、“おうちでハロウィンパーティー”も開催するなど、子ども達のために、コロナ禍の中で新たな工夫&チャレンジを頂いた父母の会本部の皆様にご心より感謝申し上げます。

・依然としてコロナへの警戒が必要な状況です。日常の感染防止はもちろん、急な対応が求められることも予想されますので、事前の(心の)準備も含めて、引き続きご理解・ご協力をお願い申し上げます。